

## 特集 2 リゾート開発における諸問題

# 佐賀県内リゾート開発の方向と 自然環境からみた問題点

佐賀大学名誉教授  
佐賀短期大学教授

藤原 勲

### 1. 県内各市町村のリゾート関係プロジェクトについて

現在佐賀県の各市町村で計画あるいは一部実施されているリゾート関係のプロジェクトは下記の通りである(図1参照)。なお、これらの計画は昭和62年8月、県から各市町村に問い合わせ、回答のあったものである<sup>(1)</sup>。これらの計画中、民間による施設整備の開発の動向のあるものについては該当する計画・施設に下線を施して示した。なお、ある資料<sup>(2)</sup>によれば佐賀県として、「佐賀県西北部地域複合リゾート構想」という第3セクター方式によるリゾート構想があるということであるが、上記の県下の各市町村の動向から推測すると、佐賀県リゾート計画(近く承認申請が行なわれる予定)の内容も図1に示したものと基本線は同様と思われる。つぎにこれらの各プロジェクトの整備面積(ha)、および計画・施設の概要を示す。なお順序は県東部地域から時計の針と逆向きに述べる。

- ①基山町リゾートランド(基山町)：約50ha。  
民間、スポーツレクリエーション施設。
- ②サガハイランド(ペンタ共和国)、(佐賀北部山間地域：富士町、背振村、三瀬村、七山村、厳木村)：36,813ha。公共・民間。5町村一体となって、広い地域を生活植物園とし、21世紀県民の森、どんぐり村、スポーツ公園、モータースポーツランド、ダム公園などを含む。

- ③ふるさと観光総合開発(大和町)：面積未定、公共、川上金立県立自然公園を背景とした総合レジャー施設の整備。
- ④丹きゅうの里(多久市)：180ha。公共。多久聖廟や数々の歴史的遺産を中心とした歴史の里タクスピランド：50ha。民間、一部公共。市内北部の山林と炭坑跡地に陸上競技場、野球場、テニスコート、レジャーランド、ホテル。
- ⑤天徳地域開発計画(相知町)：150ha。公共、民間。ゴルフ場、テニスコート、レストハウス、研修センター。
- ⑥唐津地域開発構想(唐津市)：面積未定。公共、一部民間。観光ゾーン、海洋性リゾートゾーン、港湾ゾーン、商業地域開発ゾーンの4つの開発方向。ビーチハウス群、松原の活用。ゴルフ場造成、コマユターゾーン整備。
- ⑦コースタルリゾート(呼子町)：5ha。公共、マリーナ、人工海浜、朝市会場。
- ⑧玄海リゾート(玄海町)：100ha。民間。マリーナ、テニスコート、天文台。
- ⑨伊万里湾リゾート開発(伊万里市)：1,100ha。公共、民間。海洋性レクリエーション基地、(ヨットハーバー、人工海浜、緑地)。ソーラーポンド利用の温水プール(アスレチック、ホテル、会議場)。
- ⑩有田VOC構想(有田町)：約39.7ha。民間。美術館、歴史資料館、イベント広場、焼き

- ① 基山町リゾートランド
- ② サガハイランド  
(ペンタ共和国)
- ③ ふるさと観光総合開発
- ④ 丹きゅうの里・タクスピオランド
- ⑤ 天徳地域開発計画
- ⑥ 唐津地域開発構想
- ⑦ コースタルリゾート
- ⑧ 玄海リゾート
- ⑨ 伊万里湾リゾート計画
- ⑩ 有田VOC構想
- ⑪ 文教・娯楽・保養地区整備  
(いで湯と陶芸のふるさとづくり)
- ⑫ 嬉野観光リクリエーション基地計画
- ⑬ 有明海干潟公園整備計画基本構想



図1 佐賀県各市町村リゾート関連プロジェクト

#### 物アトリエ、カルチャースクール。

⑪ いで湯と陶芸のふるさとづくり(武雄市)：

12,896ha. 民間。宿泊施設, 窯元めぐりルート整備, 歴史資料館, 市民プール, ゴルフ場。

⑫ 嬉野観光リクリエーション基地計画 (嬉野町)：8,041ha. 公共。総合運動公園（多目的運動広場, 野球場, 草スキー場, 体育館, テニスコート, キャンプ場）図書館, 民俗資料館。

⑬ 有明海干潟公園整備計画基本構想 (鹿島市)：干潟生態館, 展望塔, どろんこ池, 潮

スキー, 多目的広場, 野外音楽堂, 浮き桟橋, 民家園, クリーク, 駐車場。

以上の、今回入手できた資料にもとづいて判断すると佐賀県各市町村で計画されているリゾート関連プロジェクトは、民間事業のものも含めて、地域的にはほとんど県の西北部および西部地域に集中しており、東部では基山町のリゾートランド計画と、西南部の鹿島市が中心となって計画している有明海干潟公園整備計画基本構想が見られるにすぎない。

## 2. 県内各地域における自然環境上の問題点について

以上のべた、佐賀県内におけるリゾート計画の動向にもとづき、これらの計画の概略と自然環境から見た問題点について考えてみたい。

佐賀県は九州の西北部にあって、西は長崎県、東部と北東部は福岡県に接している。また北には玄界灘、南には有明海という非常に性質の異なる二つの海に面している。各市町村から出されているリゾート開発計画をみても、玄界灘や有明海の自然環境が持っている特徴を利用しているものが多い。

### a. 玄界灘沿岸地域について

玄界灘に面する唐津湾沿岸は花崗岩の上に玄武岩が乗った地質であって、海岸には美しい砂浜が発達している。虹の松原はその一つであって、観光資源としてリゾート計画に組み入れられている。しかし、問題点もないわけではなく、松原の東端の浜崎付近では波の浸食をうけ、砂浜が消失する傾向があり、これに対して離岸堤を設け、真砂を海中に投じて浸食を防いでいるが、離岸堤と海岸との間の海水の入れ替わりが減少し、投入された土砂と相俟って環境が劣化する可能性が高い。先年、唐津火力発電所建設のための埋め立てにより、唐津西の浜の環境が悪化したという苦い経験がある。

呼子町や伊万里市においてもリゾート開発計画の一部に人工海浜造成が含まれているようだ。伊万里湾岸は第三紀層の上に玄武岩が乗る地質で、北部では玄武岩が海岸線に姿をみせる。海岸はアーチ式で凹凸に富み、磯浜が多く、リゾートを利用するならばこの自然の地質的特徴である磯浜を生かすことを考えるべきである。多数の人々をひきつけようと

して、唐津湾岸のような砂浜を安易に求めるところ、おそらくは、投入した砂の浸食防止のために沖合に防波堤などを構築することとなり、自然の勝れた環境を失う結果となるだろう。また、伊万里湾の東側の海岸の浜は数少ない貴重なカブトガニの産卵場所が存在するので、開発に当たってはこれを避ける配慮が大切であろう。なお、常緑広葉樹林としては玄界灘の高島、加部島、などの島島や沿岸一帯、東松浦半島の所々にマテバシイ、スダジイ、タブ、などの群落が見られるが、これらは自然の景観を保つ重要な要素であるので、これらの林を破壊するのではなく、対馬海流という黒潮の恵みに培われた豊かな森が、玄武岩からなる台地に散在する、特色ある自然を生かし、落ちつけて、くつろげるレクリエーションの場とすることが望ましい。

### b. 有明海沿岸地域について

有明海沿岸は大半、干拓堤防が設けられていて、その前面の干潟をレクリエーションに利用しようという計画がある。この干潟は有明海における水産業の基盤であるばかりでなく、野鳥や珍しい干潟の海産動物の宝庫でもある。他方、有明海海岸は地質的には軟弱な粘土層で構成されているので、この点では観光・レクリエーション施設をつくるのに適地とは言い難い。もし利用するとすれば太良町から鹿島市にかけた海岸の小規模な利用であろう。これらの地域では、多良岳の裾野が海に臨み、火山岩類からなる海岸で、沖合には干潟が連なっている。ただ、この地区の北半は比較的安定であるが、南の半分は風化の進んだ凝灰角れき岩でできているので、大崩壊を生じた（昭和37年）ことがあり、観光施設をつくるさいには十分なる配慮が欲しい。

佐賀県の観光・リゾート資源の中で、自然的資源として知名度の高いことでまず考えられるのは上に述べた虹の松原であろうが、人文資源としては、祐徳稻荷神社、有田・伊万里の焼き物、嬉野、武雄の温泉などがあげられる。これらは殆どすべて県北西部に集中している。

県西部地域は、地質的には第三紀層の上に玄武岩から流紋岩にいたる各種火山岩類があり、起伏に富む地形で、黒髪山や御船山などの景勝地がみられるが、これらの景勝は露岩とそれを囲む植物相とが組み合わさって形成されるものであるから、これらの植物相が開発のために破壊されることは極力避けねばならない。また、これらの露岩の下の岩場の付近や岩の上、あるいは谷間に当たる部分などにもしばしば貴重な種類の植物がみられることがあり、これらは現在の特殊条件のもとでのみ辛うじて生き残っている植物であって、ほかの肥えた日当たりのよい場所などへ移植すると繁殖困難なものが多いので、このような場所の現状変更は避けねばならない。

また、新聞の報道によれば、嬉野町、武雄市、多久市などこの地域のリゾート開発計画中にも競技場、野球場、ゴルフ場など広い土地を要するスポーツ施設を設けることが予定されているようだが、これらの地域には、佐賀県においては殆ど見られなくなった、常緑広葉樹林の残存林が、小規模ながら所々に残っているので、自然環境保護の立場からこれらは是非保存して欲しいものだ。

#### c. 県北部山地地域について

県の北部地域は背振山(1,055m)を中心とする背振山地と天山(1,046m)を中心とする南縁山地との間に挟まれる広い高原地域から

構成されている。この地域は主として花崗岩で構成され、急斜面は硬岩が露出しているが、緩やかな傾斜面では厚い風化帯を伴うことが多い。この風化帯はいわゆる真砂である。開削などが行なわれ、急斜面が残る場合には、降雨の際に斜面上を流れる雨水のため、深い多数の雨裂を生じやすく、また斜面に植物が育つことも困難なことが多いために、下流域に災害をもたらしやすいという問題点を持っている。

上記の県北部地域では、数町村一体となって広い地域のリゾート基地「ぺんた共和国」づくりが計画されており、このなかにはすでに開設されている「三瀬ル・ペール牧場どんぐり村」(民間)もあり、牛、馬の放し飼い、ローラースケート場、乗馬場などのレクリエーション施設もある。また計画中のものには草スキー、人工雪スキー場、サイクリングパーク、モトクロス、ゴルフ場などの各種のスポーツ・レジャー施設があり、また森林浴遊歩道、バードウォッキング施設なども造られるようだ。これらのスポーツ・レジャーそれ自体は大変結構なことであるが、これらの施設をつくるにさいしては上に述べたところのこの地域の地質的特徴を踏まえ、将来、災害など引き起こさない充分なる検討が必要である。

この地域は常緑広葉樹の自然林は殆ど残っておらず、スギ、ヒノキの造林地帯となっているが、所々にアカマツ林、シイ林、アカガシ林のほか、コナラ・クリを交えた常緑広葉樹の林が見られ、また山頂部にはブナ、ミズナラ、アカガシなどの自然林が小規模ながらみられる。これらの常緑・落葉広葉樹林は植物景観を多様化するだけでなく、種々の動物

とくに鳥類を呼び寄せ、リゾート地にふさわしい豊かで心の休まる自然環境を構成する上にも大切な要素であるから、各種施設を造成するに当たってはこれらの広葉樹の林は出来る限り残すようにしたいものである。

### 3. リゾート開発についての意見

佐賀県は緑豊かな県といわれるが、山や平野の自然度は低く、植林や田畠が多い。残されたわずかな自然林や二次林をリゾート開発のために破壊することは県民の幸福にとっても、また佐賀県のリゾート地づくりにとってもマイナスと思われる。なぜなら、佐賀県のリゾート開発は、自然そのものあるいは自然と極めて関係の深い産物をもって、人々をひきつけ、ありのままの田舎の持つ、のどかな落ち着きを味わってもらえることを、基本に考えるべきだという有力な意見があるが、もしそうであれば、自然の森は、海岸や山とともに、佐賀のリゾート地域では特に重要な構成要素になるからだ。リゾート開発のためには、勿論ある程度道を作り、また建物を建てることも必要であろうが、そのさい一度破壊されるとその回復が困難な、自然林、池あるいは岬というようなものは残すことが必要である。

最近、他県ではゴルフ場での除草剤の被害とか土地が大手観光産業により買い占められるとか、リゾート地開発と関連して地元との間にいろいろな問題も起こっているようだ。人類の経済・文化の発展はある程度の自然破壊を伴うものなので、リゾート開発がすべて悪いというわけではないが、これは時間的、空間的、社会的に広い立場に立って充分に考えた上で実施すべき問題である。リゾート開

発のための各種施設計画はそれらが将来にわたってどの程度利用されるか、本当に一般の人々の、また特に地元のすべての人々の幸福につながるものか、はたしてそのプランが地元の自然を生かし、その地域の文化を伝えるのに適当であるかなどの点をよく検討する必要があろう。

今回の執筆に当たり佐賀県の地質について佐賀大学大島恒彦教授に多くの有益な教示を賜った。また、佐賀県内各市町村のリゾート計画について、佐賀県企画開発室から資料(1)を頂いた。衷心より御礼申し上げる次第である。

### 参考資料

- (1) 長銀経営研究所 佐賀県リゾート構想策定調査 報告書 昭和63年3月
- (2) 三菱総合研究所 レジャー・リゾート開発計画の実際と先進事例 昭和63年1月
- (3) 文化庁 植生図・主要動植物地図(41 佐賀県) 1978
- (4) 宮脇昭編著 日本植物誌 九州 1981 至文堂

### 著者略歴

氏名：Isao Fujiwara

学歴：昭和20年 広島文理科大学生物学科（植物学専攻）卒業

職歴：佐賀大学名誉教授

佐賀短期大学教授

（一般教養・生物学研究室）

著書、賞、研究例等：オウバコ属植物の染色体に関する研究等多数あり

委員：佐賀県自然環境保全審議会委員 他